

宇都宮市立桜小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習に関する項目について】

○「家で、学校の宿題をしている」が98.1%、「学校の宿題は、自分のためになっている」が94.3%で、家庭で宿題をする良い習慣ができていることが分かる。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」が84.6%、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」が84.6%と、肯定割合がどちらも高い。児童は学習のめあてを意識して取り組んでいることが分かる。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」が55.7%と低い傾向にある。間違えた問題を繰り返し解くことで学習の確実な定着を図ることができることを、今後も児童や保護者に啓発していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」で、「はい」と回答した児童が76.9%であった。「必要感をもって、自分の考えを表現したくなるような課題」を提示したり、「自分の考えをまとめて書き表す書き方マニュアル」を示したりして、一人一人が自信をもって自分の考えを文章に書き表すことができるようにしていきたい。

【自分自身のことに関する項目について】

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦っている」の肯定的回答割合が90.4%と県の平均を上回っている。今後も児童が様々なことにチャレンジできるように励ましていきたい。

○「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答割合が、73.1%と県の平均を約6ポイント上回っている。今後も授業や学校行事などで、発言や行動を認める場面を意図的に作っていきたい。

●「毎日、同じくらいの時くにねている」では、県平均を3%、「早ね、早おきを心がけている」では、県平均を6.9%下回っている。これらのことから、生活のリズムが不規則な児童や睡眠時間の十分な確保が難しい児童もいるので、家庭と連携して規則正しい生活のリズムを作り、児童の意識を高めていきたい。